

地層の区分

谷津3丁目地域の地盤構成は、上部より、盛土埋土層 (B)、沖積粘性土層 (Ac1) もしくは沖積砂質土層 (As1)、洪積砂質土層 (Ds1) で構成され、ほぼ水平に体積しています。

最上部の埋土・盛土層(B)は、砂質土および火山灰質粘性土を主体として、地域全体を覆っており、沖積砂質土層 (As1) と沖積粘性土層 (Ac1) は、互層状になっています。

表-1 土質層序表

時代		土質名	土質	記号	特徴
第四紀	完新世	盛土・埋土層	砂質土	B	砂質土及び火山灰質粘性土からなる全体に砂質土主体
		沖積粘性土層	砂混じりシルト 砂質シルト	Ac1	均質なシルト 全体に粒径の細かい砂を混入する
		沖積砂質土層	細砂 シルト質細砂	As1	粒径が細かく均一な砂を主体とし、少量の貝殻片を混入する
	更新世	洪積砂質土層	細砂	Ds1	粒径が細かく均一な砂からなる所々細粒分を多く混入する

各地層の特徴

・盛土・埋土層 (B)

盛土層は、洪積層に類似した砂およびロームに類似した火山灰質粘性土からなっています。

埋土層は、浚渫土ともいわれており、粒径の細かい砂を主体とし貝殻片を含んでいます。

・沖積粘性土層 (Ac1)

沖積粘性土層の上部は、砂分を全体に多く混入し、シルトを主体としています。下部付近は、均質なシルトからなり、全体に少量の貝殻片と砂分が混入しています。

・沖積砂質土層 (As1)

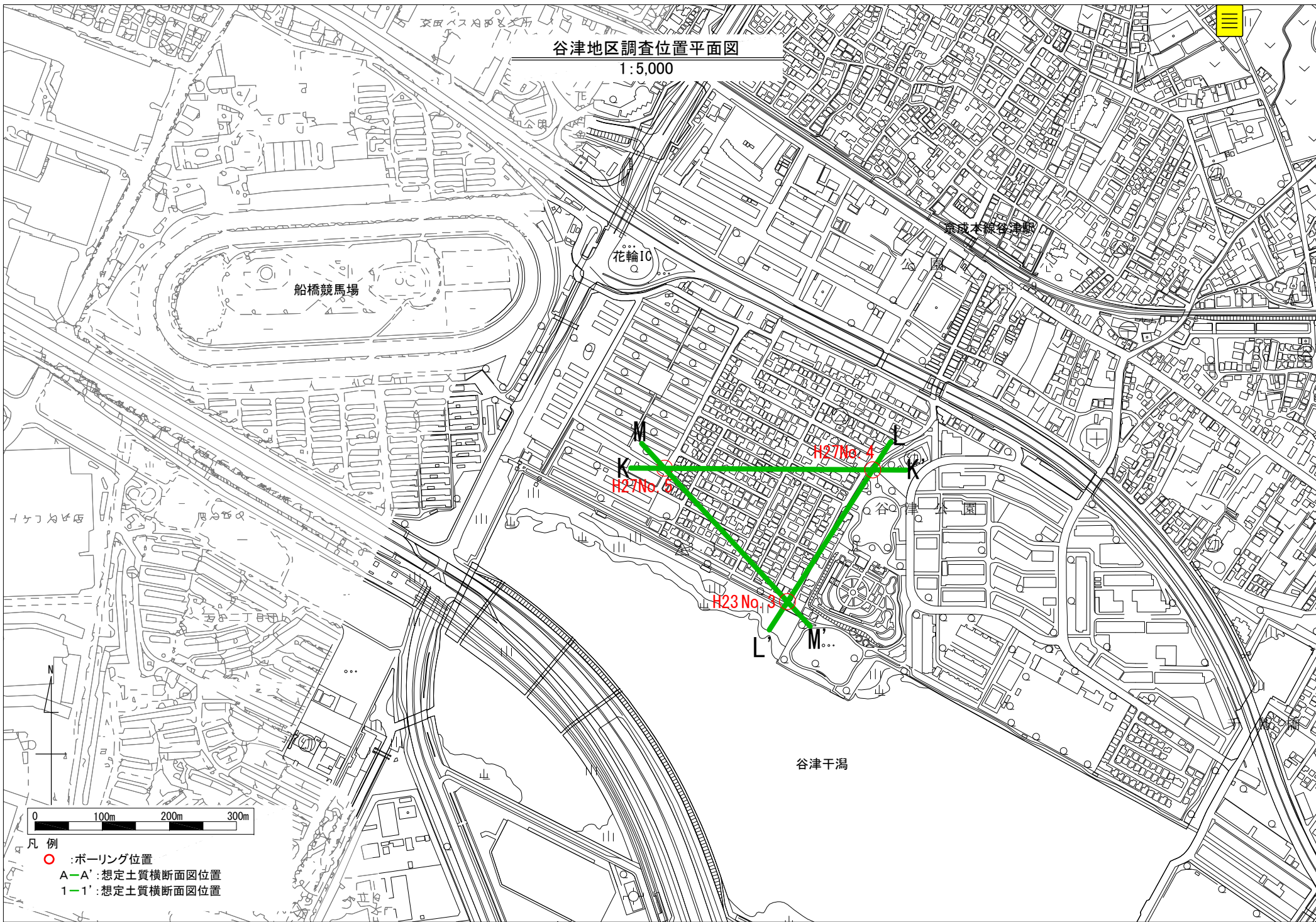
沖積砂質土層の上部は、粒径が非常に細かく、ほぼ均一な砂を主体としています。全体に少量の貝殻片を多く混入し含水量が多く、下部付近は、全体に少量の細粒分を混入し、貝殻片の混入量が少なくなっています。

・洪積砂質土層 (Ds1)

粒径の細かい均一な砂を主体とし、所々、細粒分（粘土分+シルト分）を多く混入しています。

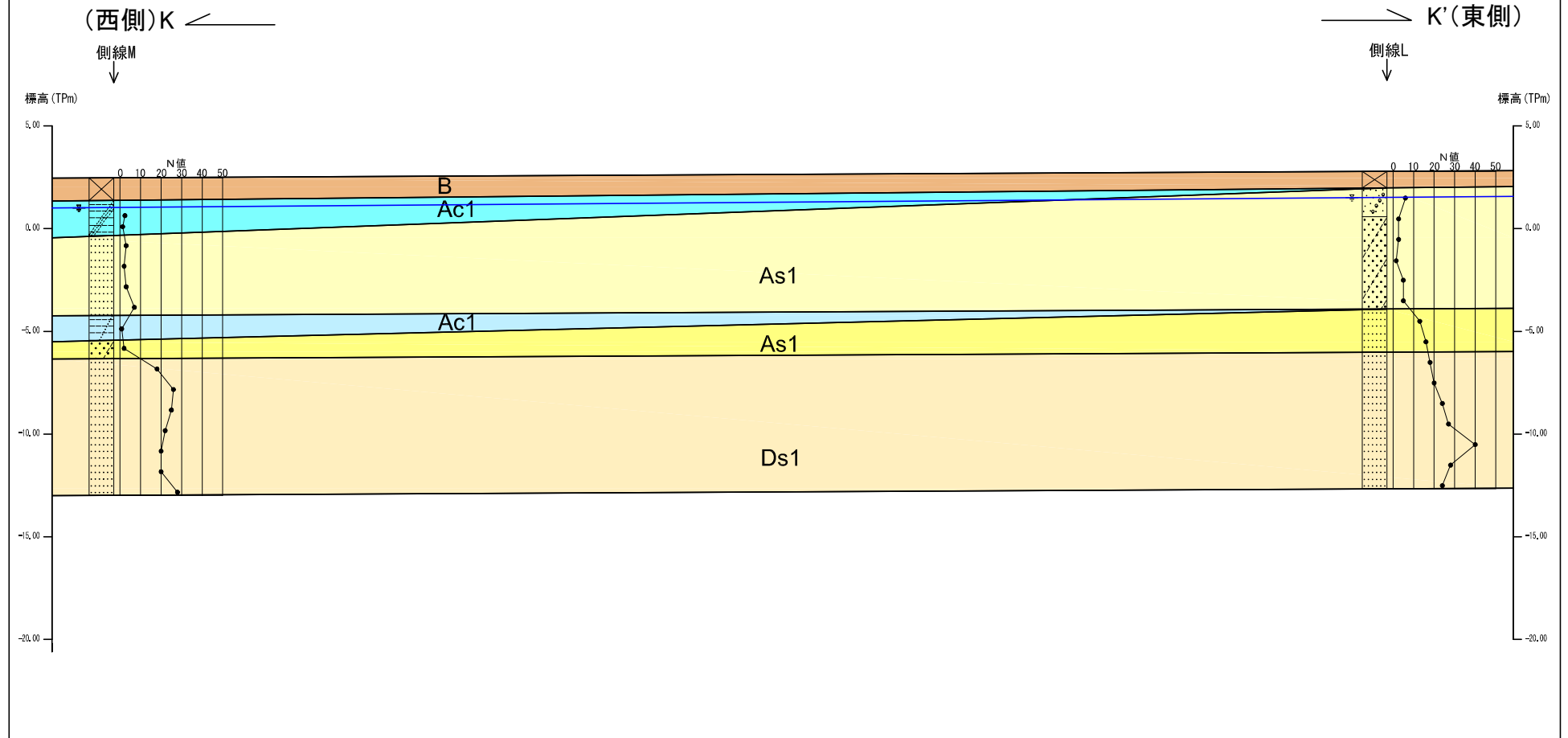
谷津地区調査位置平面図

1:5,000



- 凡例
- : ボーリング位置
 - A-A' : 想定土質横断面図位置
 - 1-1' : 想定土質横断面図位置

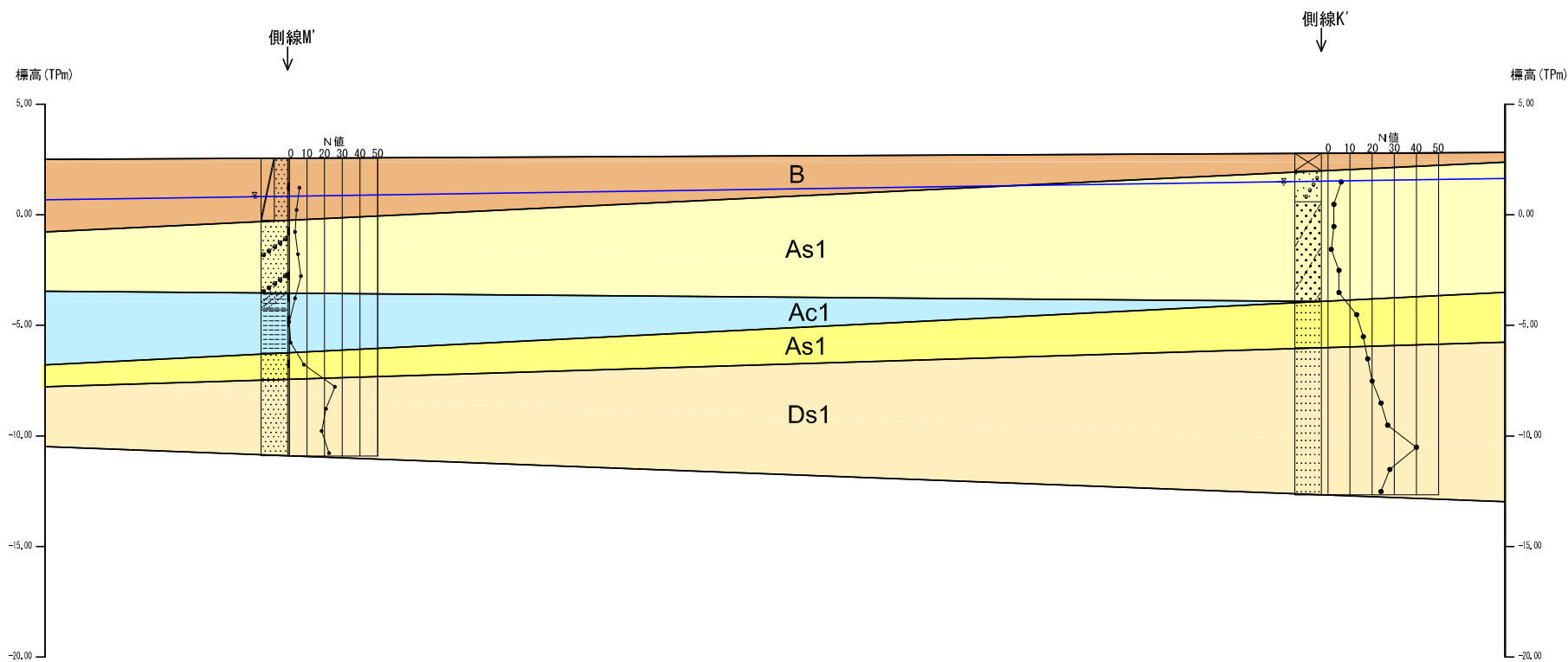
想定土質横断面図 (測線K-K')
縦1/200 横1/4,000



想定土質横断面図 (測線L-L')
縦1/200 横1/4,000

(海側)L' ←

→ L(陸側)



想定土質横断面図 (測線M-M')
縦1/200 横1/4,000

(陸側)M ←

→ M'(海側)

